



発行：熊谷市立江南文化財センター

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りいたします。また被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。

## TOPICS

### 西別府祭祀遺跡出土品が県指定文化財に

3月、西別府祭祀遺跡出土品が新たに県指定文化財になりました。市指定史跡の西別府祭祀遺跡は、西別府に所在する湯殿神社社殿裏手の湧水周辺に形成された祭祀遺跡で、近年、隣接する西別府廃寺、西別府遺跡、深谷市幡羅遺跡とともに、古代の郡役所・寺院・祭祀の遺跡がまとまって確認された遺跡群として、全国的に注目されています。

指定された出土品は、人形・馬形・横楡形・勾玉形など7種類の形代の石製模造品や、吉祥や願文、呪術的な文字、人名・地名と考えられる文字が墨書された土器など計359点です。

これらは、7世紀から11世紀まで湧水に対する祭祀が継続的に行われていたことや、飛鳥時代に始まった石製模造品を使った祭祀から奈良時代以降の土器を使った祭祀へと祭祀が変遷していったことを示す貴重な一括出土資料群として、指定されました。

\* 県指定を記念して、出土品展を開催します。(詳細は本誌の最終ページ参照)



石製模造品（人形・馬形・横楡形）

### 別府地域出土遺物展示・説明会開催

2月1日から7日にかけて、市立別府公民館において、主に別府地域の方々に、地元の歴史を知ってもらい、郷土を愛する気持ちを育てていただくため、県指定文化財・横間栗遺跡出土品、古代幡羅郡役所と関連がある西別府廃寺出土品など、別府地域の発掘調査により出土した土器や石器等の展示を行いました。これに併せて、発掘調査から分かった別府の歴史についての説明会を実施し、映像を使い分かりやすく説明しました。

期間中、403人を数える観覧者、参加者があり、別府地域をはじめ多くの方々から好評を得ました。



展示会の様子

### ◇東北地方太平洋沖地震による市内文化財の被害状況について



3月11日発生の東北地方太平洋沖地震により、市内に多数所在する文化財のうち、2件が被害を受けました。妻沼にある国重要文化財「歓喜院聖天堂」では、拝殿南側破風の蛙股が落下し、拝殿と籠堂をつなぐ渡り廊下との接合部に一部損傷を受けました。また、上中条の常光院境内にある市指定文化財「天野氏の墓」の3基ある宝篋印塔のうち2基が一部崩落しました。被害を受けた文化財は速やかに適切な処置が講じられました。これら2件以外の指定文化財については、特段の被害は認められませんでした。

一部崩落した天野氏の墓・宝篋印塔

## 市内遺跡発掘情報

### 箱田氏館跡「縄文時代の土偶と古墳時代のお墓を発見！」

1月～3月末まで行った上之地区の発掘調査では、縄文時代後期（約3300年前）と古墳時代の初めごろ（約1700年前）の遺跡を確認しました。縄文時代は竪穴建物跡3軒などが見つかり、谷状の窪地からは多量の縄文土器や、剣形石製品、石器などが出土しています。また、土偶も多く出土しており、良好な資料を有する遺跡として注目されます。古墳時代は前方後方形周溝墓と呼ばれる、お墓が見つかりました。市内では初の事例で、県内でも数例しかありません。お墓の規模は、横幅が



ミミズク土偶が出土した様子



前方後方形周溝墓（人間の位置は1m間隔）

18.8m、縦幅が14.8mでした。遺物も祭祀に関係する土師器や木製品が出土し、資料的価値の高い成果をあげることができました。今後、整理調査を進めて江南文化財センターなどで公開展示を実施したいと考えています。

## 連載 埋蔵文化財の保護活動

### 第6章 工事立会

埋蔵文化財の工事立会は、埋蔵文化財包蔵地内及び近接地における各種開発等に伴い、実施しています。工事立会の措置を執るケースとしては、①埋蔵文化財が工事等によって破壊されず、現状保存される場合、②埋蔵文化財の分布状況が希薄である場合、③掘削範囲が狭小で試掘調査や本発掘調査を実施できない場合等があります。

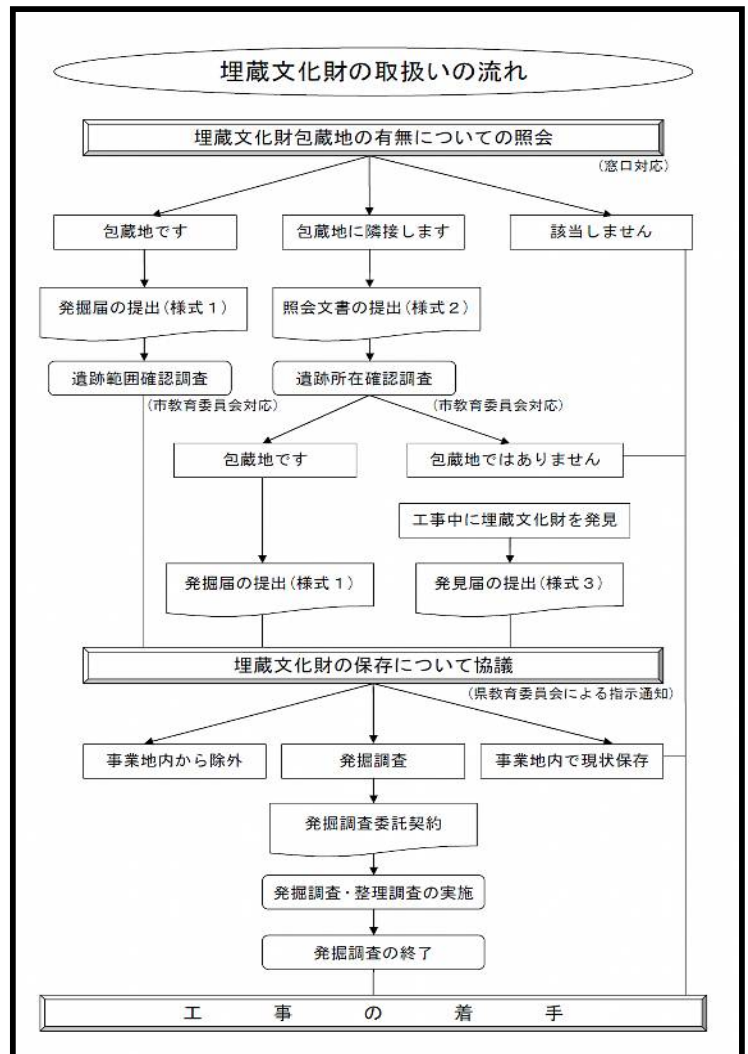
工事立会は、試掘調査とともに遺跡の内容や広がりを確認するだけでなく、近隣における開発等から埋蔵文化財を保護するために必要なデータを収集する役割も担っています。

### ◇ 平成 22 年度における埋蔵文化財発掘の届出・照会文書の件数等について

平成 22 年度の各種開発等に伴う届出等の件数は、文化財保護法第 93 条に基づく発掘の届出が 172 件、照会文書が 95 件の計 267 件でした。前年度比約 50%の増加となり、過去最高の件数となりました。措置としては本発掘調査が 2 件、工事立会が 158 件、慎重工事が 107 件、試掘調査実施件数は 31 件でした。なお、埋蔵文化財包蔵地の照会件数は 497 件でした。

今後とも、届出・照会文書の提出をはじめ、埋蔵文化財の保護にご協力をお願いします。

### 埋蔵文化財の取扱いの流れ



(様式などは、文化財センター窓口・ホームページにて参照できます。)

## 文化財センター通信

### 星溪園所蔵品展

3月中旬から、星溪園の積翠閣展示スペースにおいて、収蔵している書画のうち、熊谷にゆかりのある作家の作品を展示しています。今回展示している作品は、日本美術院（院展）同人である大野百樹氏の日本画、また地元竹町（鎌倉町）にて生まれ、明治から昭和時代前期にかけて文展、帝展で活躍した吉原雅風の水墨画です。

所蔵品展は、10月2日（日）まで開催し、途中7月頃に展示替えをする予定です。



大野百樹『松』（左）・『朝陽』（右）

### 市指定文化財「石像十三仏」傍示標の設置

3月下旬、梅岩院（池上）に所在する、市指定文化財「石像十三仏」（有形民俗文化財）を案内する傍示標を設置しました。「石像十三仏」は、元和九年（1623）から寛文九年（1669）にかけて、当地の新井吉兵衛が親族や子供の追善供養のために造立した十三体の仏像です。不動、釈迦、文殊、普賢、地藏、弥勒、薬師、観音、勢至、阿弥陀、阿闍（あしゅく）、大日、虚空蔵の各仏によって構成されています。このように十三仏が揃っていることは、県下においても稀であると言えます。



### 市指定文化財「鎌倉彫前机」の調査

2月中旬、香林寺（東別府）が所蔵する市指定文化財「鎌倉彫前机」（有形文化財・工芸品）の管理状況調査を行いました。香林寺は、地元別府氏が開山し、450年以上の歴史を有する名刹です。

「鎌倉彫前机」は、江戸初期の作と推定され、仏前の花瓶や香炉など置く机として、また、「歓喜天」を祀った厨子を載せる台として使われていました。前机の大きさは高さ23.4cm、縦20cm、横60cmであり、格狭間（こうざま）と呼ばれる装飾には、前後に橘、左右に笹の文様が施されています。温かな彫に、黒と朱の漆を丹念に塗り上げた鎌倉彫の特徴を、年代を経た今でも感じることができます。



### 文化財探訪 塩古墳群 — 4世紀から6世紀の時代を今に残す貴重な古墳群

塩古墳群は、市内南西部塩地内の丘陵上に所在する、4世紀から6世紀にかけて造られた古墳群で、昭和35年に埼玉県指定史跡に指定されています。



現在の塩古墳群

現在75基の古墳が確認されており、4世紀という古い時代の古墳群は、県内でもきわめて珍しいものです。古墳の形は、弥生時代の流れを引き継ぐもので、大小二つの四角形をつなげた形の「前方後方形」と四角形の「方形」をしていて、県内の古墳の始まりを考える上で非常に重要なものとなっています。

平成5年に、古墳の形を確認する発掘調査が行われ、古墳の周りの溝から、埋葬者に供えられたと推定される土器が出土しています。埋葬施設の調査は行われておらず、どのような人物が埋葬されていたのか、詳しいことは分かっていません。

## 文化財コラム 古代との遭遇・第6話 流転の短甲武人埴輪



明治9年2月2日午後4時、上中条の耕作者によって鹿那祇東古墳から、11体の埴輪が掘り出されました。掘り出された埴輪たちの多くは保存状態が良好でした。耕作をしながら発見した人の驚きぶりが目に浮かぶようです。埴輪たちは、当時の人々の目を引き、見学者であふれたといえます。その大騒ぎによって、数体の埴輪は壊されてしまいました。しかし、発見した人達の手によって短甲武人埴輪と馬形埴輪だけは何とかこの難を乗り越り保存されたのです。

短甲武人埴輪はその後、大里青山の根岸武香氏の手に移り厚く保護されてきました。そして全国に紹介されて多くの考古学者の注目を集め、いろいろな図譜や論文に用いられ、パリで開かれた万国博覧会にも紹介されるに至ったのです。以後東京国立博物館に所蔵されていたのですが、太平洋戦争時には再び根岸家に疎開しています。そして昭和33年には重要文化財に指定され、36年には東京国立博物館の所蔵になっています。

こうした流転をくり返した埴輪ですが、顔立ちは端正で、その上気品があり、頭部と胴部のバランスや全体のプロポーションが理想的なものになっています。

また甲冑は眉庇(まびさし)を付け、鉄筋を鋳留(びょうどめ)した短甲を装着した的確な表現をしています。そして、最も特徴的なことは、顔の作りにあります。輪郭の整った顔に杏仁形(アンスの種の断面形)の大きな眼が切り取られ、周囲をへう先で押さえて上下の瞼を表現しています。さらに筋の通った鼻から、わずかに盛り上がった眉、薄く開けられた口が絶妙に配されています。このような作風の面からも、この短甲武人埴輪は、国内の武人埴輪の中で他に例を見ないほど秀作の逸品であると言えます。

### ◇ 県指定記念・西別府祭祀遺跡出土品展のご案内

	場所	期間(予定)
第一会場	市立熊谷図書館3階 郷土資料展示室	平成23年4月26日(火)～9月4日(日)
第二会場	江南文化財センター	平成23年5月23日(月)～7月15日(金)

休館日(図書館:月曜・第一金曜 文化財センター:土・日曜・祝日)

### 編集後記

東北地方太平洋沖地震により、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りし、被災された方々にお見舞い申し上げます。また、被災地においては多くの文化財が毀損したことが、明らかになっています。現在、ユネスコや文化庁を中心として、研究機関や行政、NPO等などの幅広いネットワークの構築がなされ、文化財の被害状況の把握ならびに今後の修復に向けた働き掛けが行われています。

人類共通の財産である文化財や文化遺産も、紛争、自然災害、環境破壊、社会構造の変化などにより、十分な保護が図られず、未来に引き継ぐことが危ぶまれている事案が国内外において多く存在しています。今回の震災を機に、文化財を保護する「絆」について再認識できたらと考えています。



発行:平成23年4月20日

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

ホームページ:文化財の紹介、埋蔵文化財の取扱方法、「BUNKAZAI情報」カラー版などを豊富に掲載

「熊谷市の文化財」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/>

「熊谷市web博物館」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>